

〈音楽〉

創造的な鑑賞の能力を育てる指導の工夫 —— ワークシートの工夫や批評文をもとにした交流を通して（第1学年） ——

沖縄県立南風原高等学校教諭 仲 間 ひろみ

I テーマ設定の理由

国際化が進展している今日、時代を担う子どもたちに対し、日本の伝統文化を尊重し、郷土や国を愛し、国際社会の一員としての意識を涵養することがますます重要となってきた。伝統文化の尊重と国際理解の重要性は、学習指導要領の改訂に明確に示されたところであり、その具体化が求められている。本県では、学校や地域での活動を通して、三線や琉球舞踊、エイサーや組踊などの郷土の文化に親しむ環境が整えられている。祭りや式典などで伝統音楽を観賞したり披露したりするなどの機会が多く、郷土の文化が生活と密着していることがうかがえる。世界の国々の音楽の多様な特徴を理解することは、子どもたちの音楽の価値をさらに深めるとともに、その国々への理解や、尊重する意識を育てることに結び付く。そして、国際社会において主体的に生きる資質と能力の育成につながり、国際理解を深める意味でも、非常に意義あるものであると考える。多感な時期である子どもたちにとって、日本の伝統音楽や郷土の音楽に親しむこと、愛着を持たせる学習を大切にすることで、異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存していく態度の育成につながると考える。音楽がその地域で生きる人々の感性から生まれ、生活と共に変容し、育まれた文化であることを学習させることや、その音楽の美を味わうことから、音楽の表現や鑑賞の能力を育てることに結び付くととらえる。

平成21年12月に改訂された「高等学校学習指導要領解説芸術音楽編」（以下「解説音楽編」と略す）より、音楽Iのねらいに「B鑑賞」の中で「イ音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞すること」及び「エ我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること」と示されている。その内容の取り扱いについては、「楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする」とされている。鑑賞とは、音楽を聴いてそれを享受するという受動的なものではなく、音楽によって喚起されたイメージや感情を、自分なりの言葉で言い表したり書き表したりするといった主体的・能動的な活動を通して成立される。また、音楽における批評については、「音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者に伝えること」と示されていることから、鑑賞を通し批評する活動を行うことで、音楽への理解や音楽のよさや美しさなどの味わいを深めることにつながり、創造的な鑑賞の能力の育成が図られるといえる。

これまでの授業実践において、生徒自身が、活動した内容について感想をまとめたり、曲に対する思いや考え方を言葉で表現したりするなど、文章による表現の取り組みを行ってきた。生徒たちは、感じた思いを素直に表現しようと意欲的に取り組む様子が見られたが、中にはその思いをどのようにまとめてよいのか迷う姿が見受けられた。その理由として、生徒の思いを表出させる発問が効果的でなかったと考えられる。また、楽曲の旋律・詞（詩）・歴史的背景や、音楽を形づくっている要素などに関連させること、根拠をもって意見をまとめ、伝え合う場の設定が不十分だったことも理由としてあげられる。特に、郷土の音楽については、技術習得が中心となっていたことから、自らの国や地域の伝統音楽への理解につなげるための工夫が必要とされる。

そこで、本研究において鑑賞領域として日本の伝統音楽を取り上げ、普段触れることの少ない日本の伝統音楽の文化・歴史背景に対する理解を深めながら、そのよさや美しさを味わい、音楽鑑賞に対する興味・関心を高め、鑑賞の能力を育てたいと考える。方法としては、日本の楽器や旋律などに視点をおいたワークシートを活用することで、興味・関心をもたせる。そして、作品についての批評文を作成し、互いの批評文をもとにした交流を充実させることで、音楽鑑賞に対する興味を持たせ、鑑賞の能力を育むことにつなげたいと考える。

〈研究仮説〉

鑑賞領域において、伝統音楽の鑑賞を通して音楽への理解を深めるとともに、知覚・感受したことをワークシートや批評文をもとに交流し合う活動を行わせることにより、創造的な鑑賞の能力が育つであろう。

Ⅱ 研究内容

1 創造的な鑑賞の能力

(1) 音楽科における鑑賞

音楽科における鑑賞とは、「解説音楽編」の中で、「様々な音楽を聴き、それぞれの音楽が持つよさや美しさなどを味わうこと」とあり、鑑賞の学習は「音楽によって喚起されたイメージや感情を、自分なりに言葉で言い表したり書き表したりする主体的・能動的な活動によって成立される」と示されている。鑑賞は、多様な音楽の聴取活動を通して、単に音楽を受容するだけでなく、音楽の美しさや楽しさを自ら進んで味わおうとする態度や、聴取の能力の育成を目指す積極的な活動である。そして、感じた思いに対し、根拠をもって他者に伝えていく能動的な活動として考えることができる。鑑賞の能力を育てるために、鑑賞による知覚・感受を通して、音楽を形づくっている要素や音とのつながりについてとらえさせ、文化的・歴史的背景に関する知識の習得を行い、思考・判断・表現に結び付けることが大切である。そして、音楽の特徴をとらえ、楽曲の背景と関わらせ、思考・判断することから自分なりの価値に気がつき、自分の言葉でその思いを表現することもまた重要である。これらの活動を往還させ、批評活動へとつなげることで、積極的・能動的な活動となると考える（図1）。このことから、鑑賞において、楽曲の特徴をとらえ、音楽のよさや美しさに対し、根拠をもって他者に伝える活動を関連付けて学習することは、鑑賞の能力を育む上で大切であり、その活動を工夫することは重要である」ととらえる。

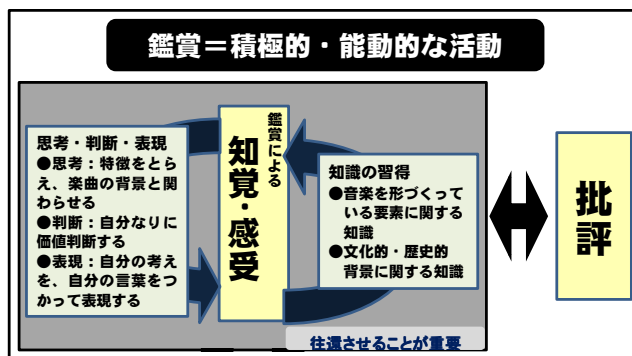


図1 鑑賞とは

(2) 伝統音楽と鑑賞

中央教育審議会答申（平成20年1月）の中で、「伝統や文化に関する教育の充実」について、「芸術文化に親しみ、自ら表現、創作したり、鑑賞したりすることが、伝統や文化の継承・発展に重要であることは言うまでもない。特に、伝統的な文化にかかわっては、（略）これらの継承と創造への関心を高めることが重要である。」と示されており、自国の伝統音楽に対する理解を深めることが大切であると考えます。徳丸吉彦（2002）は、伝統音楽である雅楽・能・歌舞伎について、「社会的文化的アイデンティティの表徴であり、重要な芸術文化である」と述べています。日本の伝統音楽は、これまでの歴史や社会背景の中で生まれ、継承されてきた音楽であり、日本の各地域で生活している人々と密着し、人々と共に変化し続けてきた音楽である。音楽や舞踊、演劇などとの結びつきや、お祭りや儀式、日常に関することにも深くかかわるなど、多様な要素をもち、その有り様は日本人固有の美意識に根ざしていると考えます。日本の風土や歴史・文化の中で生まれ育まれた日本の伝統音楽について、授業を通して鑑賞することは、音楽科における鑑賞の能力を育成するとともに、価値ある伝統音楽にふれさせることで、伝統音楽を尊重する意識と態度を育てることにつながる。そして、生徒一人一人の音楽の世界を広げ、音楽のイメージの創造につなげ、伝統音楽をじっくり味わわせたいと考えます。

教材として扱う長唄については、三味線を伴奏楽器としている。三味線は、沖縄の三線が大阪に渡り、その土地や気候に合わせ変化・発展し、成長して現在の音色や形状となった楽器である。また、長唄は「歌い物」と呼ばれ、細棹の三味線と歌唱によって演奏される音楽であり、江戸時代に歌舞伎の作品中で演奏される伴奏音楽として発展した経緯を持つ。長唄について、楽曲の時代背景の理解を深め、三味線の奏法や、歌唱の節回し、歌い方など、音楽に関する特徴を学ばせながら、その特徴から生まれた楽曲のよさや美しさを楽しむことができるよう、取り組んでいきたい。

(3) 創造的な鑑賞の能力

創造的な鑑賞とは、鑑賞の知覚・感受によって湧き上がる音楽のよさや美しさを感じ、知識の習得や楽曲に対する思考・判断・表現の活動を通して、これまで感じた音楽の思いに対し、新たなよさや美しさを発見し、音楽に対する価値をさらに深めていくことである。

「解説音楽編」では、音楽Ⅰの目標として「音楽の幅広い活動を通して、（略）創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める」と示されている。「創造的な鑑賞の能力を伸ばし」とは、「生涯にわたって豊かな音楽活動ができる基になる能力を育てること」とあることから、鑑賞において、音の組合せの特徴をとらえることや、楽曲の背景をかかわらせて考え、自分なりに

これらのことから、創造的な鑑賞の能力を育むために、音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する過程を大切にする授業の工夫を行い、音楽に対する理解を深めていきたい。そして、そのよさや美しさについて根拠をもって説明する活動を行うとともに、音楽に対する感性がより磨かれていくような活動につなげていきたい。

2 創造的な鑑賞の能力を育てるワークシートの工夫

日本の伝統音楽を理解させる手立てとして、ワークシートの工夫について考える。1枚目は、音楽の特徴である旋律や節回し、歌詞について楽曲全体を視覚的にとらえることができるよう、聴くポイントを絞ってまとめていくワークシート、そして2枚目は、長唄の時代背景や楽器の歴史についてまとめるワークシートを作成し、伝統音楽に対する知識について整理したり、理解したりできるように工夫したい。

(2) イメージワードシートについて

イメージワードシートについては、曲のイメージの喚起を促す言葉を準備する。内容として、楽曲の雰囲気をも具体的に示せるよう、色や場所、場面や感情にかかわる言葉を簡単にまとめ、次に、音楽を形づくっている要素に関連した内容

図2 可視化を図るワークシート

図3 イメージワードシート

を準備し、批評文に生かせるようにしたいと考える。イメージワードシートの活用については、最初の授業で提示し、生徒の感じた思いを言葉につなげるための動機となるよう配慮した。最終的には、自分自身の中から言葉を探し出し、ワークシートや批評文などをまとめることができるよう、指導の工夫を行いたい。

3 批評文をもとにした交流について

(1) 音楽科における批評文とは

音楽科における批評とは、楽曲や演奏に対し、音楽を形づくっている要素や音楽から得られる感情について根拠をもって批評することであり、自分にとっての音楽の価値を深める手段であるにとらえる。鑑賞の学習は、音楽を形づくっている要素などを客観的な理由としてあげながら、それらと曲想との関わりや、楽曲や演奏に対する自分なりの評価などを書き表し、他者に伝えることが不可欠である。そのため、音楽によって湧き上がったイメージや感情について、音楽を形づくっている要素とのかかわりやその働きを考えさせ、根拠をもって言葉に表現することを確認し、批評文を書かせるような場の設定の工夫が大切となる。そして、その活動の中で、記入のポイントを意識させながら、批評文をまとめ、批評する活動へとつながり必要がある。

批評文をまとめることは、自己の考えを整理し、それを言葉で表現する言語活動の一つだととらえる。自己の思いを、根拠をもって言葉にまとめていけるよう、曲のイメージを喚起し、ワークシートの工夫を図り、充実した活動となるよう指導にあたりたいと考える。

(2) 批評文をもとにした交流について

創造的な鑑賞を行うためには、生徒同士が根拠をもって作品に対する思いを伝え合い、音楽のよさや美しさを深めていくことが涵養となる。そこで、生徒同士で互いの批評文を紹介し、互いの思いを交流できる場を作りたい。

これまで、作品に対する個々の思いを伝えあう場を適切に設定できなかったことから、交流することに対し、自分の思いや考えをうまく伝えられなかったり、戸惑いを見せたりする生徒が予想される。そこで、生徒一人一人が自分の思いを伝えられるよう、グループの活動で交流を図ろうと考えた。

グループ活動については、石井信夫(2001)は「個々の学習者の尊重とそのグループの質の向上、つまり、個々の学習者の個性を生かすとともに、グループの成員としての機能を果たさせること」をねらいと示している。グループ活動を通し、生徒個々の楽曲に対する思いや考えを身近な相手に伝えること、そして、互いの思いや考えの共有を通して伝え合うことに自信を持たせ、さらに、作品のよさや美しさについて他者の視点から気付くことができるのではないかと考える。また、グループ活動からクラス全体へと徐々に交流の場を広げ、そこで新たな思いや考えに触れ、楽曲に対する理解がさらに深まる活動となるよう工夫したい。

これらの活動を通し、初めに感じた曲に対する思いや考えが、批評文をもとにした交流で広がりをみせ、再度行う鑑賞によって、楽曲に対する自分自身の思いを振り返るとともに、音楽に対する理解を深め、そのよさや美しさを感じることから、創造的な鑑賞の能力の育成を図りたいと考える。

Ⅲ 指導の実際

1 題材名 日本の伝統音楽の鑑賞を通して～「京鹿小娘道成寺」の味わい～

2 題材の目標

- (1) 長唄に関心をもち、そのよさを味わって鑑賞する学習に主体的に取り組むことができる。
- (2) 長唄の旋律や節回しなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取り、楽曲に対する自分の思いや考えを批評文にまとめることができる。
- (3) 批評文を通して、生徒同士でイメージを伝え合い、共有することができる。

3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
① 曲の雰囲気を感知し、主体的に学習に取り組もうとしている。	① 音楽を形づくっている要素を知覚し、その特徴を感じ取ろうとしている。
② 楽器の音色や伝統音楽の特徴を理解しようと、主体的に学習に取り組もうとしている。	② 批評文を用い、自分なりに曲のよさを伝えようとしている。

4 指導と評価の計画（全4時間）

時	主な学習内容・活動	指導上の留意点	学習活動に即した 【評価規準】【評価方法】
<鑑賞>長唄（歌舞伎）を鑑賞しよう <ねらい>鑑賞を通して、感じたことを言葉にまとめ、楽曲に対する知識を広げる。			
第一・二時	○ 曲の雰囲気について、イメージワードシートを活用し、まとめる。 ○ 長唄（歌舞伎）の歴史について。 ・ 長唄について理解する。 ・ 日本の伝統音楽における歌舞伎とのかわりについて理解する。 ○ 楽器の特徴について理解する。	○ 雰囲気について、言葉につなげられるよう、机間指導による声かけを行う。 ○ 楽曲と歴史、人々の生活との関わりについて関連があることをわかりやすく説明する。 ○ 楽器の特徴を理解するため、映像や音源を活用する。	○ 楽曲について、自分なりに感じたことを表現し、長唄の歴史や楽器について理解しようとしている。 【ア②】【ワークシート】
<鑑賞>長唄（歌舞伎）の楽曲を可視化し、音楽を形づくっている要素を考えよう <ねらい>鑑賞を通して知覚・感受した楽曲を可視化し、音楽を形づくっている要素をとらえる。			
第三時	○ ワークシートを活用し、歌や楽器の旋律を可視化する。 ○ 鑑賞する曲の音楽を形づくっている要素について理解する。	○ 歌詞や楽器に着目させるため、何度も音源を流せるように、事前準備を行う。 ○ 前時でまとめたワークシートを活用させ、楽曲全体をとらえられるよう、考え方のポイントを示す。	○ 音楽を形づくっている要素について、知覚・感受し、特徴をとらえている。 ○ 曲の雰囲気を感じ取り、主体的に取り組もうとしている。 【エ①】【ワークシート】 【ア①】【行動観察】
<鑑賞>批評文を作成し、グループで交流しよう <ねらい>生徒同士の批評文をもとにした交流を通して、音楽のよさや美しさを深めていく。			
第四時	○ 日本の伝統音楽について感じたことを批評文としてまとめる。 ○ グループ学習で互いの考えを交流する。 ・ 気付いた点をまとめる。 ・ 交流を行う。 ○ 鑑賞を行う。 ○ 感想まとめ	○ 前時で学んだことを振り返らせ、まとめるよう説明する。 ○ 相手の批評文に対し、共感したことや感じ方の違いなど、気付いたことを大切に促す。 ○ 自分が気付いた点をまとめるようにする。 ○ これまでの授業を通して、感じたことや新しく気付いたことをまとめさせる。	○ 感じた思いと音楽を形づくっている要素を関連させ、批評文を書くことができる。 ○ 互いの交流から、新たに気付いたよさをまとめている。 【エ②】【批評文】【交流】

5 検証授業（全4時間）

(1) 第一・二時

① 主題名 「長唄（歌舞伎）を鑑賞しよう」

② 本時の目標

ア 鑑賞して感じたことを、イメージワードシートを活用して表現することができる。

イ 長唄についての理解を深める。

③ 本時の展開

時	過程	学習活動	指導上の留意点	【評価規準】【評価方法】
第一時	導入	1 題材全体の流れを確認する。 2 本時の目標を確認する。	○ 日本の伝統音楽の鑑賞を通して、音楽の世界を広げていけるよう、説明する。	
	展開①	1 長唄『園に色よく咲き初めて』『花の姿の乱れ髪』を鑑賞する。 2 聴いた作品について感じたことをまとめる。 3 イメージワードシートの活用方法を確認し、鑑賞する。 4 鑑賞で感じたことをまとめる。	○ 感じた思いをまとめられるよう確認し、鑑賞させる。 ○ イメージワードシートを配布後、イメージワードシートの活用について説明する。 ・ 音楽から感じたことを、イメージワードシートの言葉を参考に、具体的に記述する。 ・ 音楽に関連した言葉を用いて、感じたことを表現する。 ○ 鑑賞後、感じた思いを言葉にまとめられるよう、机間指導を行い、支援する。	○ 楽曲について、自分なりに感じたことを表現し、長唄の歴史や楽器について理解しようとしている。 【ア②】 ワークシート
第二時	展開②	5 長唄や楽器について、ワークシートをまとめる。 ・ 長唄の歴史について。 ・ 楽器の特徴について。	○ タブレット端末を使用し、映像を通して三味線や小鼓などの音色などを確認する。 ○ これまでの学習を振り返らせ、再度長唄の鑑賞を行う。	
	まとめ	1 本時の学習を振り返る。 2 次時の内容の確認する。	○ 本時の学習のまとめを行う。 ○ 次時の予告を行う。	

(2) 第三・四時

① 第三時について

主題名 「長唄（歌舞伎）の楽曲を可視化し、楽曲の構成を考えよう」

目 標 長唄の鑑賞を通して、旋律やリズムなどを可視化し、音楽を形づくっている要素に気付くことができる。

② 第四時について

主題名 「批評文を作成し、グループで交流しよう」

目 標 生徒同士の批評文をもとにした交流を通して、音楽のよさや美しさを深めていく。

③ 第三・四時の展開

時	過程	学習活動	指導上の留意点	【評価規準】【評価方法】
第三時	導入	1 本時の目標を確認する。	○ 前時の内容を確認し、批評の交流について予告する。	
	展開	1 長唄の旋律や音楽を形づくっている要素について可視化できるよう、ワークシートをまとめていく。 2 音楽の可視化を通して、気付いた事を記入していく。	○ 歌唱や器楽の聴くポイントについて焦点化し、鑑賞を行う。 ○ 生徒の様子を見ながら、数回楽曲を鑑賞させる。 ○ 今回行った鑑賞から、新しく気付いた点をまとめさせる。	○ 音楽を形づくっている要素について、知覚・感受しようとしている。 ○ 曲の雰囲気を感じ取り、主体的に取り組もうとしている。 【エ-①】ワークシート 【ア-①】[行動観察]
		1 次時の内容の確認をする。	○ 次時の学習につなげるよう意識させる。	
第四時	導入	1 批評文のまとめ方を確認する。	○ これまでのワークシートを活用して、評文のまとめ方を確認する。	
	展開	1 鑑賞を通して批評文をまとめる。 ・ これまでのワークシートを活用し、批評文を作成するようにする。 2 グループ学習で批評活動を行う。 ・ 交流した内容から、気付いた点があれば記録する。 ・ 生徒同士の発表について、それぞれの感じ方から、そのよさを見つけられるように気をつける。 3 再度鑑賞を行う。 ・ これまでに感じたことや気付いたことをまとめていく。	【Cの生徒に対する支援】 第一時の文章作成において、文章まとめで進んでいない生徒に対し、音楽を形づくっている要素から感じたことを具体化できるよう、声かけをする。 ○ 交流を通し、生徒一人一の発表内容について、それぞれのよさを見つけるよう意識させる。 ○ これまでをふり振り返りながら、楽曲への感じた思いをまとめるよう促す。	○ 感じた思いと音楽を形づくっている要素を関連させ、批評文を作成できる。 ○ 互いの交流から、新たに気付いたよさをまとめている。 【エ-②】[批評文][交流]
	まとめ	1 本時の学習を振り返る。	○ 本時の学習の成果と課題について確認する。	



交流の様子

6 仮説の検証

研究仮説に基づき、伝統音楽の鑑賞を通して音楽への理解を深め、知覚・感受したことをワークシートや批評文をもとに交流を図ってきた。生徒の創造的な鑑賞の能力を育てることができたかについて、批評文の記述内容や批評文をもとにした交流及びワークシート、そして検証授業前後のアンケート調査や行動観察などにより検証する。

(1) ワークシートの工夫による創造的な鑑賞の能力の育成について

鑑賞の検証授業では、生徒自身が音楽から感じた思いを言葉につなげていくこと、その言葉と音楽を形づくっている要素との関わりを考えさせるための取り組みを行った。

第一時の授業開始時の鑑賞では、楽曲に対して感じたことを自分自身の言葉でまとめることに誤行錯誤する様子が見られ、その大半は漠然とした感想文となっていた。その内容を批評へと広げるために、音楽を形づくっている要素や、楽曲についての理解が必要であると考え、ワークシートの工夫を行った。

① イメージワードシート活用の効果について

イメージワードシートは、生徒が鑑賞から感じたことについて、言葉として表現する糸口となるよう系統的にまとめられている。また、活用の際に、批評文につなげていけるような配慮も行った。具体的な内容については、生活の中で使用される言葉から音楽の専門的な用語までを整理し、楽曲に関連すること、情緒的なこと、その楽曲の特徴をとらえることを意識させ、言葉の喚起につながるよう作成した。

授業では、イメージワードシートを活用する前に1度鑑賞し、感じた思いを自由にまとめさせ、その後、イメージワードシートの配布と活用方法の説明を行い、2度目の鑑賞を実施し、感じた思いの表出がどのように変わったのかを検証した。イメージワードシートについては、鑑賞から

形づくっている要素についても着目させ、知覚・感受したことをワークシートに記入させた。

数回にわたる鑑賞の中、生徒たちはそれぞれ着目した点について、一人一人が素早く記録しようと集中する姿がうかがえた。生徒の活動の様子やまとめたワークシートから、線や記号、音符や文章の箇条書き等、生徒一人一人がポイントを絞って楽曲をとらえた様子が見られ、音楽の特徴を可視化することができたと考える（図6）。

生徒がまとめた文章から、歌唱に関する特徴や、楽器に関すること、音楽を形づくっている要素など、音楽に関わることについてまとめたり、舞の動きと音楽の関わりやその他の気付いた点をまとめたり、と様々な視点で音楽をとらえる様子が見られる（図7）。音楽を形づくっている要素を可視化するワークシートの活用から、歌の旋律や楽器の演奏について楽曲の整理を行い、それぞれに着目し、生徒自身の気づきを記入させることができた

（表1）。また、長唄や用いられる楽器についてのワークシートの活用から、三味線の特徴や文化的背景、沖縄の音階との違い、そして芸能などの記載がみられるようになった（表2）。ワークシートの工夫を通して、音楽を形づくっている要素の特徴をとらえ、ワークシートでまとめた内容を意識しながら、文章を客観的にまとめるために効果があったと考える。

検証前の生徒の文章中と比較すると、音楽を形づくっている要素についての記載が少なかったが、検証後は、リズム、強弱、速度などの要素について記載が増えており、このことから、ワークシートの活用の効果がみられる。

生徒の意識調査からは、音楽を形づくっている要素と伝統音楽に対する興味について、数値の変動により意識の変化をみることができた。

音楽を形づくっている要素については、検証前は全体的に音楽を形づくっている要素についてのとらえが少なかったが、検証後は、形式以外の全ての項目でポイントが増加した。特に、リズムについては7人から17人、速度については3人から13人へと増加していた（図8）。このことから、音楽を形づくっている要素について、着目するポイントを絞って教師側が視点を与えることで、音楽を形づくっている要素について、着目する点が広がったととらえられる。そのことから、音楽鑑賞から感じた思いに対し、音楽をとらえる視野が多面的になり、なぜそう感じたのかを思考する場面が増え、より具体的に表現することに結び付けることができたと考える。そのことから、創造的に鑑賞する能力を育てることに有効であったととらえる。

次に、日本の伝統音楽に対する興味についての調査をおこなった。生徒たちがこれまでに鑑賞した日本の伝統芸能について、知っている芸能があるのか調査したところ、「雅楽」「能」と回答する生徒が多く、次に「浄瑠璃」「神楽」や「歌舞伎」となっ

初めて長唄を聞いた時はたまた見てただけだったけど何回も見るのを通しよく聴いて見たら楽器のそれぞれが音が違いそれぞれゆっくりなったり速くなったりと強弱があって昔の人が表情豊かに見えたし、テンポも小鼓などの音ではずんだり早やがになつたりする部分もあった。楽器によって色々な表現のしかたがあるんだなと思った。
最後、横笛が出てきて力強く吹いてたからとても堂々としている感じがしました。
盛り上がる時は歌い手の声も大きくなっていった。

図7 生徒の批評文より

表1 楽曲の音楽を形づくっている要素の可視化から気付いた生徒の文章より

歌や楽器	・音階がひろすぎて勘所（音のポジション）が幅広い。 ・唄方の抑揚が激しかった。 ・小鼓も大鼓も声を出している。
音楽形づくっている要素	・唄っている人の声が独特だった。 ・テンポが乱れる。 ・観客が惹きつけられるようなリズムで耳に残った。いろいろなリズムが混ぜ合わさっている。
その他	・音楽や舞踊の表現がぴったり合っている。 ・テンポが急に速くなったり遅くなったりしていて、沖縄の音楽との違いに気付いた。

表2 長唄や楽器の特徴をから気付いたこと

・三線が大阪にもたらされ、三味線となったと初めて知った。
・沖縄の芸能は、本土から影響したものが沢山あることを知った。文化や芸能は互い影響し合っていると感じた。
・日本ならではの三味線や小鼓などを使っていることで、日本ぽさがでていた。
・本土の音階と沖縄の音階が違うことと、曲調も違うことを学んだ。
・（楽器について）やっぱり地元でとれる材料を使って作られているんだと思った。
・琉舞とは違うリズム、音色とかがあって、聴いてみてとても面白かったし、ためになった。
・似ていても全然音が違うんだと思った

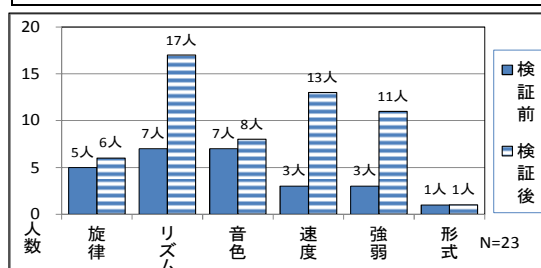


図8 音楽を形づくっている要素について

た。その中で、日本の伝統音楽への興味について聞いたところ、検証前では「興味がある」と答えた生徒が74%であったが、検証後は全生徒が「興味がある」答えており、これらの取り組みから興味・関心が高まったことが考察できる（図9）。また、歌舞伎や長唄への興味についての調査を行った。検証前に、歌舞伎や長唄を知っているかどうかの質問に対し、歌舞伎については91.3%の生徒が知っていると言っているが、歌舞伎で演奏される長唄については、生徒全員が知らないと言っていた。検証後、歌舞伎や長唄について興味をもったかどうか調査をしたところ、歌舞伎については全生徒が、長唄については95%の生徒が興味をもったと回答している（図10）。

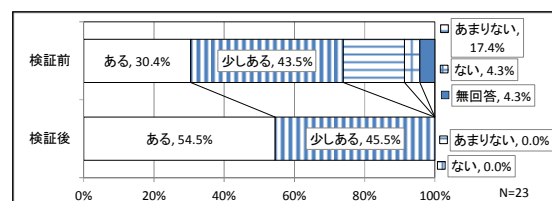


図9 日本の伝統音楽に対する興味について

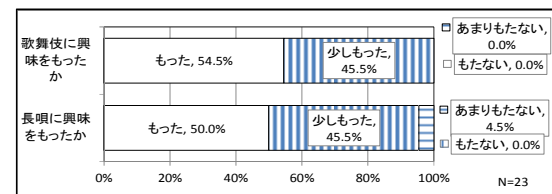


図10 検証後の歌舞伎・長唄についての質問

2つのワークシートにおける生徒のまとめやアンケート調査から、生徒たちはこれまで、歌舞伎の表層的な一面のみをとらえている状態であったのが、今回の活動を通して、長唄に対する興味・関心が高まり、思考・判断し、自分の言葉として感じたことを表現しようとする積極的な鑑賞活動につなげることができたにとらえる。

ワークシートの学習を通して、音楽を知覚・感受し、思考・判断する活動に結びつき、批評する活動につなげることができたのではないかと考える。このことから生徒個々で音楽を味わう創造的な鑑賞の能力の育成につながったと考察する。

(2) 批評文をもとにした交流による創造的な鑑賞の能力の育成について

作成したワークシートをもとに、批評文を書く活動と批評文をもとにした交流を進めていった。批評文を書いていく際、これまで感じた思いや、知覚・感受したことを批評文に表現するために、ワークシートを活用させた。また、交流については、活動の中で、他者の批評から発見する新しい視点を大事にし、それらを記録するよう促した。

批評文の作成では、集中してまとめている中で、生徒隣同士で感じたことの交流を行う姿も見られた。イメージワードシートの活用や、ワークシートによる曲の特徴を理解したことで、批評文の作成は円滑に行うことができたと考える。

生徒個々が作成した批評文から、検証以前と比べ、生徒一人一人が楽曲の特徴をとらえ、整理した知識やそれぞれの思いなどをふり返り、言葉として表出している様子がみられた（図11）。他の生徒の批評文からは、「曲の後半は緊張した感じがして、特に笛の音色が印象に残った」「何度も鑑賞することで、楽器それぞれの音の強弱を発見でき、テンポなども、小鼓などではずんだり華やかになったりした」とあり、ワークシートを活用し、批評文を作成することで、生徒の感じた思いを整理し、言葉として表出する手立てとなり、批評の交流につなげることができた。このことから、幅広く楽曲について理解し、感じた思いを具体的にし、創造的な鑑賞の能力を育むことにつながることができたと考える。

生徒自身が批評することに対し意識がどう変化したのか調査を実施した（図12）。検証前、音楽を聴いて感じたことを身近な人と話し合うことができるか聞いたところ、「できる」「少しできる」と回答したのが73.9%であった。検証後、音楽を聴いて以前より身近な人に伝えることができるようになったかどうかに対し、95.4%の生徒が「できるようになった」「少しできるようになった」と答えている。このことから、イメージワードシートの活用や、ワークシートを取り入れた活動を行うことによって、自分の考えを言葉で表現できる糸口をつかみ、批評文を作成することや交流に結びつけることができたのではないかと考察する。

批評をもとにした交流の様子から、これまでまとめた批評をグループで発表し、自分の思いをうまく表現

長唄というものは人の唄い方
や、日本独特の楽器で、華やか
なリズムを細かく表現し
ていて、とても素晴らしいと
思いました。今まで、曲の雰囲気
がわかりにくかったが、今回の学習を通して、長唄の
独自のおもしろさを見つけられた
と思うのでよかったと思います。

図11 生徒の批評文より

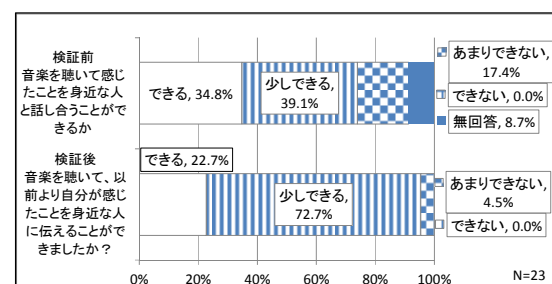


図12 音楽を聴いて批評する活動についての質問

しようと身振り手振りで説明したり、他者の批評を熱心に聴いて記述したり、と活発に交流を行う姿がみられた。まとめた文章からも、交流を通して他者の批評から気付いたことをまとめ、疑問点に対し質問するなどの積極的な姿がみられた。検証後の調査では、交流に積極的に「取り組めた」と91%と回答があり、「自分の思っている事を伝えるのが楽しかった」「自分とは違う考え方や、とらえ方があった」という生徒の感想や、交流後の鑑賞についてまとめた文章から、これまで気付かなかった部分に着目し鑑賞している様子が見られた(図13)。

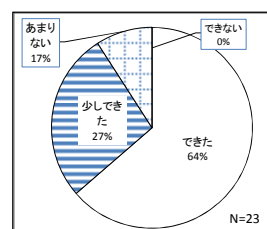


図13 交流について、積極的に取組めたか？

また、交流から音楽のよさや美しさを見つけることができましたか、という調査に対して「できた」「少しできた」と答えている生徒が96%となっており、楽曲の雰囲気や演奏について意見を交わすことで、これまで生徒一人一人感じていた音楽に対して思いが広がり、自分の言葉を他者に表現する楽しさに気づき、曲に対する新たな視点を見出したのではないかと考察する(図14)。

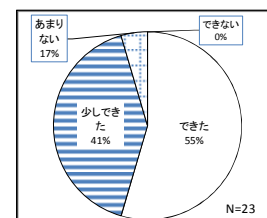


図14 交流を通して音楽のよさや美しさを見つけることができましたか？

鑑賞の中で、楽曲を可視化するワークシートを取り入れ楽曲の特徴をとらえることや、批評文をもとに生徒同士で交流を図ることを行ってきた。この活動を通し、ワークシートで聴き方のポイントを確認し、楽曲を知覚・感受し、理解をすることで、思考・判断し、批評という表現活動につなげることができたと考える。生徒の文章からは、感じた思いを音楽と関連させ、客観的に表現する姿がうかがえ、そして、ワークシートの活用前と比べると、その文章の内容について、充実した記述がみられるようになった。また、生徒がまとめた感想からは、長唄の繊細さを感じたことや、別の曲を鑑賞したいという意欲がみられ、これらの活動を通して、鑑賞に対し意欲的に取り組む意識が芽生えたととらえることができる(表3)。このことから、ワークシートの工夫と批評文をもとに交流することを通して、思考・判断し、批評する表現活動につながり、創造的な鑑賞の能力を育てることができたのではないかと考察する。

表3 生徒の感想より

- ・日本の音楽は日本の象徴だし、誇れるものだとも思いました。
- ・長唄というものは、歌い方や楽器が独特で、華やかさや繊細さを細かく表現していて、とても素晴らしいと思った。長唄の独自のよさを見つける力がついたと思うのでよかった。
- ・琉球音楽も歌舞伎の音楽も同じ日本なのに、独特さがそれぞれあり、違って良いと思った。
- ・他国の音楽も聴きたい。
- ・普段の鑑賞時、何も思いつかず「すごい」と思うだけだった。また鑑賞したいと思った。

これまで、郷土の音楽に親しんでいる生徒たちが、この学習を通し、日本の伝統音楽に触れることから、その地域の歴史や文化を理解し、改めてそのよさや美しさを味わうことができたのとらえる。そして、鑑賞を通して、意欲を高めるとともに、創造的な鑑賞の能力の育成につなげることができたと考える。今後も、授業を通して日本の伝統音楽や郷土の音楽、そして様々な音楽について、そのよさや美しさを味わえるよう指導にあたり、伝統音楽を尊重する意識や態度の育成につなげていきたい。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) ワークシートの工夫やグループによる批評文の交流から、音楽のよさや美しさを様々な角度から発見させ、創造的な鑑賞の能力を育てることにつながった。
- (2) ワークシートを工夫し楽曲を可視化することで、音楽を形づくっている要素を具体的に把握することができ、さらに、集中して聴取する意識を高めることにつながった。
- (3) グループによる批評文の交流を通して、生徒たちが自分の意見を他者に伝えることの楽しさや、自分の意見を受け入れてもらえる喜びを味わわせることができた。

2 課題

- (1) グループ活動について、知覚・感受した音楽に対する価値がより深まるような適切な場の設定が必要である。
- (2) 取り扱う教材について、生徒の実態をとらえた選択と、より丁寧な教材分析が必要である。

〈参考文献〉

- 大熊信彦 2013 「中学校・高等学校の指導内容等の関連と実践」 「音楽教育における学力をどう捉えるか」
『中等教育資料』 学事出版
- 笠谷和比古・堀努・山手美保・美濃亮・澤井陽介 2013 「伝統や文化に関する教育の今後の在り方をどう考えるか」
『初等教育資料』 学事出版
- 大熊信彦 2012 「高等学校新教育課程の指導と評価」 「各教科等の改善／充実の視点」 『中等教育資料』 学事出版
- 上原克子 2012 「学習プリント」 『教育音楽 中学・高校版』 音楽之友社
- 高橋宏治 2012 「学習プリント」 『教育音楽 中学・高校版』 音楽之友社
- 大槻秀一 2011 『新編 これからの中学校音楽ここがポイント [新学習指導要領]対応完全マニュアル』 音楽之友社
- 茂手木潔子 2010 「日本の声を学ぶ」 『教育音楽 中学・高校版』 音楽之友社
- 文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領解説芸術（音楽）編』 教育出版
- 吉田孝 2009 「音楽科における「言語活動の充実」」 『音楽鑑賞教育』 公益財団法人音楽鑑賞振興財団
- 文部科学省 2006 『教育基本法改正に関する国会審議における答弁』
- 木村次宏 2005 「鑑賞指導」 『重要用語 300 の基礎知識 8 巻』 明治図書
- 寺内直子 2005 「三味線音楽」 『重要用語 300 の基礎知識 8 巻』 明治図書
- 坪野和子 2005 「異文化理解」「日本の伝統音楽」 『重要用語 300 の基礎知識 8 巻』 明治図書
- 徳丸吉彦 2002 「芸術文化政策」 『芸術文化政策 I—社会における人間と芸術—』 放送大学教育振興会
- 石井信夫 2001 「学習形態（一斉・グループ・個別）」 『重要用語 300 の基礎知識 8 巻』 明治図書
- 浜野政雄 1995 『新版 音楽学教育概説』 音楽之友社
- 酒井諄 1994 『音楽の体験と思索』 音楽之友社
- 福井昭史 1993 「音楽鑑賞指導の内容（中学校）」 『SONARE』 株式会社ニチブン
- 日本大辞典刊行編 1974 『日本国土地辞典』 第 12 巻 小学館

〈参考URL〉

- 文部科学省 2012 『言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～ 高等学校版』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2012/07/20/1322425_01_2.pdf
(2014/3/5 アクセス)
- 国立教育政策研究所 2012 『評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術[音楽]）』
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/07_kou_ongaku.pdf (2014/3/5 アクセス)
- 文部科学省 2007 「教育基本法改正に関する国会審議における主な答弁」 『教育基本法資料室へようこそ！』
http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/discussion/07011611.pdf (2014/2/22 アクセス)
- 独立行政法人日本芸術文化振興会 『文化デジタルライブラリー』
<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/> (2013/12/18 アクセス)